I 防災士制度の生い立ち

阪神・淡路大震災では、直後に16万4,000人もの人々が、がれきの下敷きとなり、そのうちの3万5,000人が生き埋めとなりました。8,000人は警察や消防、自衛隊の救助活動により救い出されましたが、その半数が亡くなりました。残りの2万7,000人の人々は家族や近隣住民により救い出され、その8割の方の命が助かりました。

災害に遭った際、救出までの時間が短いほど生存率が高くなります。災害時の生存率を高めていくためには、一分一秒でも早い救助が決め手となることはいうまでもありません。

住民一人ひとりが、防災と減災に対処する知識や技能を身につけて、災害時に備える。そして 万が一、災害に遭った時には、地域で協力して被災した人を救助したり、火災の初期消火に努め たりしながら地域の被害を最小限に食い止める。そうした地域全体の生き延びる力である"地域 防災力"向上の担い手として「防災士」が誕生しました。

2003 年から 2017 年 7 月現在までに日本全国に 132,900 名を超す防災士が誕生し、防災や減災活動のリーダーとして活動しています。

Ⅱ 防災士

*自助** 共助**協働*を原則として、社会の様々な場で防災力を高める活動が期待され、 そのための十分な意識と一定の知識・技能を修得したことを、日本防災士機構が認証した人で す。

※日本防災士機構ホームページより

皿 コミュニティ防災士

金沢市では、各校下・地区の自主防災組織に加入し、地域で活動していただける防災士を「コミュニティ防災士」と呼称しています。

Ⅳ コミュニティ防災士の活動

消防、自衛隊等の公的機関が機能を発揮するまでの間(概ね3日間)、各自の家庭はもとより、地域や職場において人々の生命や財産に関わる被害が少しでも軽減されるよう、被災現場で実際の役に立つ活動を行なう。

さらに、防災士は各自の所属する地域や団体・企業の要請を受け、避難、救助、避難所の運営などにあたり、地域自治体等の公的な組織やボランティアの人達と協働して活動することも期待されています。

また、平時には防災意識の啓発に当たるほか、大災害に備えた互助・協働活動の訓練や、防災と減災及び救助等の技術練磨などに取り組み、求められる場合には防災計画の立案等にも参画します。

V コミュニティ防災士の権限と義務

防災士は、身近な地域や職場において自発的意思に基づく互助、協働のリーダーともなる存在であって、災害によって生じる生命や財産に対する損害を軽減させる役割を担うものですが、防災士資格は民間資格ですから特別の権限や義務を持つものではありません。

Ⅵ コミュニティ防災士になるメリット

防災に関する知識と実践力を身に付け、地域社会や職場の防災士リーダとして認められます。 また、災害に備えて研鑚し、自分の命だけでなく、周囲の人々を助ける安全と安心の担い手として 今後ますます活躍が広がっています。

Ⅲ コミュニティ防災士になるための手順

① 希望通知

町会長を通じ自主防災組織代表(大部分の校下・地区は町会連合会会長が兼務)に対し、コミュニティ防災士の資格取得を希望することを通知します。

② 受講連絡

自主防災組織代表を通じ金沢市からコミュニティ防災士の資格取得のため、講義を受講するよう連絡があります。(※定員以上の希望があった場合は受講できない場合もあります。)

③ 救急救命講習の修了

全国の自治体、地域消防署、日本赤十字社等の公的機関、またはそれに準ずる団体が 主催する「救急救命講習」を受け、その修了証を取得すること。

4 講義受講

土曜、日曜等の2日間、計12講座(1講座60分以上)以上の受講」(受講料は県、市が負担)

及び「研修レポート等」の提出による研修カリキュラムを履修して<u>「履修証明」</u>を取得すること。

⑤ 試験合格

前項研修講座の履修証明を取得した者は、日本防災士機構が実施する「防災士資格取得試験」 を受験し、**合格**すること。 (受験料=3,000円)

⑥ 登録申請

上記3項目の証明書等を取得することにより、日本防災士機構への「防災士認証登録申請」 を行うことが出来ます。 (申請料=5,000円)

金沢市のコミュニティ防災士

コミュニティ防災士総数	男女別
5 3 1名	男性 387名(72.9%)
55121	女性 144名(27.1%)

コミュニティ防災士の育成目標:災害発生時に地域で活動できる人 ※防災士であっても消防団所属者、市議会議員、市職員等災害発生時、他に優先すべき活動 がある人は除きます。

また、高齢等により「活動ができない」旨申出があった人は除きます。

年齢別

年代	人員	比率	備考
20代	8名	1. 5%	最年少:25歳
30代	13名	2.4%	最高齢:84歳
40代	8 0 名	15.1%	
50代	126名	23.7%	平均年齢
60代	207名	39.0%	59.8歳
70代	8 7名	16.4%	
80代	10名	1. 9%	
合計	531名	100.0%	

防災士の育成状況

年度	18~22	2 3	2 4	2 5	2 6	2 7	2 8	2 9	合計
人員	2 5 1	2 0	2 0	4 0	4 0	4 0	7 0		481

自費取得者のコミュニティ防災士への勧誘状況

年度	18~21	2 3	2 4	2 5	2 6	2 7	2 8	2 9	合計
人員	2	1	7 3	3	2	3 0	6 6	9	186

【参考】

金沢市が把握している防災士	コミュニティ防災士からの除外者
	①死亡 6名
	②市外転出 17名
育成481名+勧誘186名=667名	③コミュニティ防災士に該当しない人
	113名
	合計 136名